

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の現状

1 感染状況、年代、感染性

- ・10代が感染の中心となってきています
- ・高校での集団感染が全国で増加し、学習塾、中学、小学校などの集団感染が多発

・大阪発の報道です

第5波以降のクラスター、3分の1で子どもから家庭内への「逆流現象」確認

2021年9月3日(金)配信読売新聞

大阪府は2日、新型コロナウイルスの「第5波」以降に府内の児童施設で発生したクラスター(感染集団)33件を分析したところ、3分の1で子どもから家庭内に感染拡大する「逆流現象」が確認されたと発表した。

府内では6月21日～8月31日、保育所で11件、認定こども園で10件、学童保育と放課後デイでそれぞれ6件のクラスターが発生し、計316人の感染が確認された。このうち10施設で、子どもから保護者らに感染が広がっていたという。

全国的に子どもの感染が急拡大しており、府内で8月25～31日に確認された20歳未満の新規感染者は4427人で前週の1.28倍。このうち、未就学児は1.61倍、小学生は1.32倍、中学生と高校生はそれぞれ1.35倍になっている。

これまでは会社や飲食店で感染した親世代から家庭内で子どもにうつるケースが目立っていた。吉村洋文知事は2日の記者会見で「子どもが家庭に持ち帰って、重症化しやすい親世代に広がっている」と述べ、家庭内での感染対策の徹底を呼びかけた。

- ・現実問題としては子供が持ち込む家庭内感染を防ぐことはほぼ不可能というのが定説です。子供自身が感染しない行動をとるよう指導するしかありません。

・感染した人からの周囲への感染はどの時期が多いか、中国発の報道です

COVID-19患者、発症前後が最も感染力が強い

JAMA Intern Med 2021年9月3日(金)一般内科疾患呼吸器疾患感染症

対象:中国・浙江省で新型コロナウイルス感染症初発症例の濃厚接触者

2020年1月8日から同7月30日間にCOVID-19と診断された患者730例

およびその濃厚接触者8852例

結果:初発例の発症2日前から3日後までの間に接触した場合が濃厚接触者の

COVID-19発症リスクが高く、0日目がピークだった

感染源の重症度別感染リスク:

軽症、中等症患者の濃厚接触者のほうが無症状患者濃厚接触者よりも感染発生率が高かった

- ・現在の日本における感染問題の重要な指標は新規感染者数よりも重症者数、病床使用率です。

2 現在までに世界で確認されたコロナウイルス株種

- ・従来型 武漢株、EU 株(武漢より流入) 全世界で著明に減少
- ・変異株

英国「アルファ株」、南アフリカ「ベータ株」、ブラジル「ガンマ株」と呼称
インド株は亜系統に分かれる

VOCに相当する「B.1.617.2」系統が「デルタ株」 日本国内での変異も確認

VOIに相当する「B.1.617.1」系統が「カッパ株」となる。

フィリピン株「シータ株」 以上は「E484K」変異を持つ

最新の変異株

WHO、南米 C.37 系統の変異株「ラムダ株」を VOI(Variant of Interest)と位置づけ
日本でも入国者に発見されたが VOI、VOC ともに位置づけしていない

WHO は 8 月 31 日、南米コロンビア「B.1.621」系統のミュー株を「注目すべき変異株
(VOI)」に分類

WHO はミュー株にワクチン耐性を持つ恐れのある変異があると説明した上で、さらなる研究によって理解を深める必要があると強調している。

- ・現在日本国内において認められる株種

従来株(と推定されるもの、未確認、少数)

インド型デルタ株(大多数)、さらにその日本国内で変異したものもある

南米 C.37 系統ラムダ株(日本でも発見ごく少数、感染性、病原性不明)

3 ワクチン

- ・現在日本で使用されているワクチンはファイザー社製ワクチン(コミナティ)とモデルナ社製です。一部の地域で 40 歳以上中心にアストロゼネカ社製使用開始。モデルナ社製ワクチンに異物混入が見つかりました。外国では見られていません。国内での製造過程での混入が疑われています。製品としては問題ないとされています。

- ・年度内には国産の有効性の高いワクチンの使用が現実的になっています
- ・ワクチンには感染防止、重症化抑制、死亡率減少の効果があります
但し、感染防止は 100%ではありません

最近の報告 デルタ株に対しては、

モデルナ社製ワクチンのほうがファイザー社製ワクチンより有効 !?

接種時の副反応が強い人のほうが抗体価が上がる(効果がよい)

女性のほうが抗体価が上がりやすい

高齢者は抗体価が上がりにくい、ワクチン接種後も要注意

機会があれば是非ワクチン接種を受けてください。ワクチン接種により家庭内感染も減少すると報告されています。特に妊娠されている方にはぜひ進めてください

ワクチンの副反応については死亡例は直接の因果関係があるとされている例は現時点ではありません。アナフィラキシー反応も日本では多くないようです。死亡例もありません。幸い血栓症や脊髄の障害例もこの両ワクチンでは報告がありません

若年者へのワクチン接種

各国で開始

しかし、英国では 12 歳から 15 歳には現時点ではワクチン接種を推奨しないと
いう指針が出されています

4 医療の逼迫状況はまだ改善していません

感染による危機的状況は全国的になりました

マスク着用、3密回避を厳守、会食禁を守って下さい

5 今後の展望

- ・まだ確たる将来像は見通せません
- ・まずは現状で入手できるワクチンで接種を進めることが肝要です
- ・ゼロコロナという人や集団免疫を模索する意見もありましたが、ともに否定的です
- ・継続的に(6 か月毎? 1 年毎?)ワクチン接種を行い、重症者発生を可能な限り減らす、死亡者を無くすことが目標となります
- ・幸い国産ワクチンの開発、治療法の確立もすすんでいます

- ・大流行で騒がれたインドではいまマスクなし、飲食店への入店も自由という生活に戻っています。これは国民全体が感染し、生き残れた人が今の生活をしています。その代償としてごく短期間に 30 万人(総死者数 43 万人以上)を超える人が亡くなられています。この死者数は正確ではなくこの数倍から、10 倍に達するという意見もあります。またこの状態は長くは続かず、ワクチン接種をすすめない限り再度の感染爆発が予想されます
- ・新型コロナウイルスが消滅するということは非常に考えにくいことです。今のような感染爆発を回避する、定期的にワクチンを接種する、の二つを社会生活を続けながら達成すれば以前に近い生活ができることが可能です。(文責 野見山)